

救済されない カネミ油症の 被害が ここにある

＝PCBが製造された高砂から問う＝

これはPCBの山である

この丘は、(株)カネカ高砂工場と三菱製紙(株)高砂工場の敷地であり、広さ約5ヘクタール高さ5メートルのアスファルトで覆われた人工の「盛立地」である。

1972年以降、この西港に高工場からの排水が流されており、この西港の底質土壌がPCBで汚染されていることがわかり、これらを液凍して固化処理をして、1976年に造成されたものである。全量は283,000m³。

この盛立地は、安全性を確保するために定期的に県・市・企業によって監視されている。

工場排水として排出され、固化されたこの盛立土は、永久に負の遺産として残り、二度と再びこのようなことのないように後世のものに語り続けるものであり、完全処理される日を待つものである。

1968年、西日本一帯で発生したカネミ油症事件。健康被害はいまも続き、被害者の多くが高齢を迎えています。原因となったPCBを製造したカネカは、いまだに被害者と直接向き合おうとせず、企業沿革からPCB「カネクロール400」の製造を抹消しました。被害を忘れ去ろうとする姿勢に、私たちは強い危機感を抱いています。

カネカが掲げる「世界を健康にする」という言葉が真実であるなら、まず油症被害者の健康回復と誠実な対話こそが出発点であるはずです。

化学物質による健康被害は、過去の出来事ではありません。再び同じ過ちを繰り返さないために、今こそ企業と社会が責任を問われています。

化学物質の被害は、油症被害者の問題だけではなく、私にもあなたにも起こりうる問題であると考え、ともに集い、被害者から学び考えあっていきましょう。

2025 集会のご案内

11/29(土) 13:30～16:00

場所：ユーアイ帆っとセンター2F

〒676-0023 高砂市高砂町松波町440番地の35

カネミ油症は1968年、兵庫県高砂で製造されたPCB(ダイオキシン類)が米ぬか油に混入し、西日本一帯でそれを食した人に深刻な健康被害が発生した食中毒公害事件です。高度成長期にPCBによる環境被害を受けた「ともに市民の会」と製造者責任を迫及する集会を開催して今年で9年になります。高砂、東京、福岡、五島、長崎など被害者が多い地区をオンラインで繋ぎ、生の声を伝えます。



東京、五島、長崎などの会場とオンライン(ZOOM)で結びます。
高砂周辺の皆様は、高砂集会にご参集ください。(参加費 500円)

ZOOM 参加はこちらからお申し込みください➡



共 催： カネミ油症被害者全国連絡会
カネミ油症被害者支援センター (YSC)
カネミ油症被害者とともに行動する高砂市民の会
(通称 ともに市民の会)

協 賛： 生活協同組合コープ自然派兵庫

問合せ：カネミ油症被害者支援センター事務局
伊勢 090 9321 8607
i-ise@ceres.dti.ne.jp

YSCのウェブサイト➡

